

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	【児童発達支援】ともしびの家-KODATSUNO-			
○保護者評価実施期間	2025/1/15		～	2025/2/3
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1世帯	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2025/1/15		～	2025/2/3
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025/2/25			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感を持って通所ができる	スタッフはお子さま一人ひとりと丁寧に向き合い、安心感を持てる関係づくりを意識しています。笑顔での対応や適切な声かけが心がけることで、お子さまがリラックスできる雰囲気を作っています。	ご家庭での様子やご家族のご要望をより深く理解するため、定期的な面談や相談の機会を増やし、より密接な連携を図ります。お子さまが安心して過ごせるよう、ご家庭と一体となった支援を目指します。
2	こどもの特性に合わせた支援	一人ひとりの特性に合わせて活動の進め方や環境を調整し、無理なく参加できるよう配慮しています。必要に応じて休憩時間を設けたり、安心できるスペースを用意したりすることで、負担を軽減します。	発達障害や感覚過敏、言語発達の遅れなど、さまざまな特性を持つお子さまへの対応力を高めるため、定期的に専門的な研修を検討します。特に、新しい支援技法の習得や実践的なケーススタディを取り入れていきます。
3	こどもの状況を保護者さまと伝え合い、共通理解ができている	送迎時に、短時間でもお子さまの様子を直接お伝えし、気になる点をすぐに共有できるようにしています。必要に応じて、その場で簡単な相談やアドバイスを行うこともあります。	ご家庭での支援と事業所での支援が連携できるよう、具体的な関わり方や成功事例を共有し、保護者の方と協力して取り組めるようにします。また、保護者の方の意見をより積極的に取り入れ、支援内容を柔軟に調整していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者さま同士のつながりや家族支援について	当事業所では、お子さまへの支援に重点を置いている一方で、保護者同士のつながりや家族支援の面では、十分なサポートができていないと感じています。送迎時のコミュニケーションはあるものの、保護者の方同士がじっくり話し合う機会が少なく、情報交換や悩みを共有する場が不足している。	保護者同士がつながる仕組みづくりが必要。保護者同士が自然に交流できる機会を検討します。例えば、お子さまの活動報告会や茶話会、テーマ別の座談会などを実施し、保護者の方が気軽に話せる場を作ります。オンライン等も含む。
2	地域や障害のない子どもたちとの交流	事業所の活動が主に施設内で行われるため、地域の子どもたちと接する機会が自然と限られてしまっている。また、事業所と地域の団体や学校との連携が不十分であり、どのように交流の機会を作るかの調整が難しい。	同法人内のフリースクール生徒との交流も視野に入れ、大規模なイベントではなく、少人数での交流活動を取り入れることで、お子さま一人ひとりが無理なく参加できる環境を整える。例えば、一緒に工作をしたり、グループでゲームを楽しんだりする活動を通じて、交流のハードルを下げる。
3	活動スペースが十分に確保されているか	集団活動や個別支援、静かな環境が必要な活動など、それぞれの活動ごとに適したスペースが求められるが、限られたスペースの中で調整が必要になる。	限られたスペースの中でも、家具の配置を工夫することで広い活動スペースを確保する。また、用途ごとに空間を分け、個別活動やグループ活動に適した環境を整える。また、刺激が多い環境が苦手なお子さまのために、静かに落ち着けるスペースを確保し、リラックスできる空間を提供する。